



静岡県地方版
第374号
2023-2-15

治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
〒427-0034
静岡県島田市伊太
1301-18早崎方
TEL・FAX
0547(36)4014

私たちの 運動の基本

ふたたび戦争と暗黒政治を許さないために

一、治安維持法体制の復活に反対する

一、国は戦前の治安維持法が人道に反する悪法であったことを認めること

一、国は治安維持法の犠牲者に謝罪と補償をおこなうこと

国民の足「鉄道」を守ろう

県本部理事 加藤 宏司

国鉄が分割・民営されて35年、「採算性」「市場原理」を最優先し赤字路線や災害により廃線、第3セクターへの移管、バスへの転換など、全国の鉄道網はズタズタにされてしまいました。(すでに45線が廃線)日本共産党が提言した「全国の鉄道網の維持と活性化へ」を読んで深く感銘しました。特に今後の鉄道の在り方について、破綻した「民間任せ」に代わる持続可能なシステムへの転換は大賛成です。

1、JRを完全民営化から「国有民営」に改革する。国が線路・駅などの鉄道インフラを保有・管理し、運航はJRが行う上下分離方式に。一例として、整備新幹線は、国の鉄道建設・運輸施設整備機構が建設・保有し、JRに貸し付ける形態なので実質的に上下分離方式が導入されています。欧州の鉄道事業

では当たり前の形態です。欧州では、自動車や航空機など他の交通機関との公正な競争条件としても道路と空港と同じように線路や駅というインフラは国が責任を持つという考え方も重視されています。

2、全国鉄道網を維持する財政的な基礎を確保する。公共交通基金を設立し、地方路線・バスなどの地方交通の支援を行う「公共交通基金」を創設し運航を担うJRの地方路線とともに、地方民鉄やバスを維持するも含め、地方の公共交通を支援します。

3、鉄道の災害復旧制度をつくり、速やかに復旧できるようにする。国が「災害復旧基金」を創設し、被災した鉄道の復旧に速やかに着手できるようにします。地方民鉄、第3セクター鉄道を含む、全ての鉄道事業者を対象に赤字路線等の災害復旧に必要な資金を提供します。「基金」には、全ての鉄道事業者が経営規模・実態に応じて拠出するとともに国が出資します。これらが実現できるようにみなさんと一緒に国労OBとして頑張ります。

(かとう ひろし)

第4回県本部理事会を開催

2/14 静岡市の国労会館において第4回県本部理事会が、理事12人の参加のもとに開催されました。

最初に江川佐一会長が開会のあいさつ。はじめに、2月6日にトルコで発生した大地震で多くの犠牲者がでていることに対して哀悼の意を表明。そしてロシアのウクライナ侵略から1年になるもとで岸田政権のすすめる大軍拡路線の問題について述べ、敵基地攻撃をおこなった場合、「日本に大規模な被害が生じる可能性も完全に否定できない」との浜田防衛相の発言にも触れ「日本を守るどころか米国の戦争に日本を巻き込むもの」として「安保3文書」の危険性を指摘し撤回させることの必要性を強調。また、党の規律違反で日本共産党を除名になった松竹伸行氏の問題を「朝日」や「毎日」がとりあげ共産党を批判していることに対して、憲法が保障している結社の自由の立場からも容認できないことを表明しました。

続いて山田巖副会長が情勢報告。1、新型コロナウイルス対策で医療体制の抜本的充実をはかる問題。2、自民党と統一協会の癒着未解明の問題と徹底究明の必要性。3、物価高騰から暮らしと経済を立て直す課題。4、「原発回帰」の閣議決定の問題。5、敵基地攻撃能力の保有と大軍拡の問題。6、国際情勢。7、県内情勢、について語りました。

岸田内閣は、これまでの政府方針を次々と覆ってきています。原発の運転を60年超えも可能にする法改正の方向もその

でいます。「安保3文書」の閣議決定も極めて危険な道突き進むもので、日本を再び戦争する国にして国民を戦争に巻き込んでいくことになりす。岸田首相が語る「専守防衛に徹して、他国に脅威を与える軍事大国にはならない」「自分の国は自分で守る」という2つの大ウソを徹底的に暴くこと、軍事力による対抗ではなく包括的な平和外交の構築こそが重要になっていることが強調されました。

一人10筆を目標に請願署名の推進を

活動のまとめと当面の活動方針については早崎末浩事務局長が報告しました。

5月17日に予定されている50回目の国会請願行動に向けて請願署名のとりくみが進められています。到達はまだ目標の2割程度です。団体署名500、個人署名5000をめざして、とりくみのテンポをはやめていく必要があります。毎年繰り返ししていますのですでに「やった」と思われている方もいます。今年提出する署名については、昨年の6月から更新して始めているものです。会員のみなさん自身とともに周りの方に広く呼びかけていきましょう。署名用紙がない場合は、各支部の役員か県本部事務局まで連絡ください。また、署名を呼びかける簡易リーフもありますので必要な方はお申し出ください。大軍拡反対署名も併せて推進しましょう。

私と国賠同盟

西部支部 木俣 徹

権力と闘い、命を賭してまで社会変革に若い人生をささげた伊藤千代子。歴史の闇に埋もれてしまいそうな千代子の史実を丹念に掘り起こし、原作本をまとめられた藤田廣登先生や映画化を支えて下さったすべての皆さんに敬意を表します。私がこの上映運動に微力ではありますが力がなれたことを誇りに感じます。

千代子が今の時代、生きていたならこの世の中をどう思うのか。千代子が生きた時代とは各段に自由な世の中になってはいるものの、千代子が想い描いた世の中には程遠いかと思います。小泉政権以降台頭した新自由主義は国民生活の格差を拡大し、アベノミクスの失敗により市場経済の限界を白日の下にさらしています。

新しい戦前ともいわれる今、不屈の歴史の継承者として自らの身を置き、そして変革者としての生き方の真価が問われる時代が来ているのではないのでしょうか。

(浜松市・きまた とおる)

500人会員の早期実現に向け前進を

会員拡大のとりくみでも引き続き前進がはかられています。当面の目標にしている全県500人会員の実現には、入会を呼びかける方を大きく広げていくことが不可欠です。すべての支部のとりくみにするとともに、この間「伊藤千代子」の映画を鑑賞していただいた方などに率直に国賠同盟の運動について語り入会を呼びかけましょう。

また、各支部で『治安維持法と現代』誌などを使った学習会も行われていますので学習と交流をはかり運動の力にいきましょう。

焼津市議選での2議席確保を力に一斉へ

一斉地方選の前哨戦ともなった2/5投開票の焼津市議選(定数21)で、5名オーバリーの多数激戦の中、国賠同盟会員でもある深田百合子、杉田源太郎の2名の共産党議員が現有議席を確保しました。引き続き4月の一斉地方選で政治革新への勢いをつけるとりくみにしていきましょう。とりわけ前半の県議選で国賠同盟の会員でもある鈴木せつ子(静岡葵区・現)平賀たかしげ(浜松中区・前)の議席獲得で共産党の複数議席を実現することは、県政革新の大きな力になっていきます。このために力を尽しましょう。

会員拡大と国会請願署名到達

2023・2・14現在

支部	会員拡大					国会請願署名							
	目標	12月到達	増減	現在到達	うち夫婦会員	団体目標	12月到達	増分	現在到達	個人目標	12月到達	増分	現在到達
伊豆	27	20	+1	21	6	50	2		2	350	15		15
沼駿	60	55		55	14	60	21	+6	27	800	160	+25	185
岳南	25	19		19	6	40	12	+6	18	350	40	+74	114
清水	45	34		34	8	60	1	+1	2	1,100	55	+20	75
静岡	45	36		36	2	80	4	+1	5	500	42	+64	106
志太椋原	140	132	+2	134	34	50	8	+6	14	400	83	+27	110
中東遠	105	103		103	18	50	26	+3	29	400	237	+35	272
西部	73	64	+1-2	63	4	80	3	+2	5	750	66	+80	146
県本部	-	-		-		30	1		1	350	42		42
合計	520	463	+4-2	465	92	500	78	+25	103	5,000	740	+325	1,065

しずおか同盟文芸

※※ 短歌 ※※

憲法の 軽視さる時 世は乱る
平和と暮らしに 尽きせぬ願

極寒の 古木に梅の 咲き初めて
ついでむ野鳥 声も立てざり

終戦後 師は青年を 育てらる
明るい未来へ 歴史の遺産

野に立てば わだつみの声 すすり泣く
学徒玉砕の 昭和を生きし

静岡 松浦美智世

編集後記

▼岸田政権がすすめる大軍拡路線、「敵基地攻撃能力」を言明し恐怖感をもたせる抑止力を強調しながら相手に脅威を与えないという矛盾を平然と語って良しとする姿勢。これまでの政府方針をいとも軽々しく覆していく姿勢に危機を覚えます。

▼数を力に国民に本音を示さずアメリカとの同盟関係を最優先に戦争する国づくりにつきすすむ政治にストップをかけねばなりません。その大きな機会が来るべきいつせい地方選。ここで岸田自公政権に厳しい審判を与え、政治の転換をはかる活動が増々重要になっています。

S・H

